

長野県林業総合センタ - 塩尻市片丘 5739
 Nagano-prefectural Forestry Research Center
 TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

シラカンバ樹液の利用方法

キ-ワード:シラカンバ、カエデ、樹液

樹液を飲む

長野県の県木であるシラカンバからほのかな甘みを持った無色透明の樹液が採取できます。

この樹液には糖類を主成分とする有機物が、全体の0.7%ほど含まれています。この糖類の存在がほのかな甘さの原因です。実際に樹液を採取して飲んでみたら、ちょっと薄めのスポーツドリンクといった味わいがありました。

樹液はいつ採るか

樹液は、早春の雪解け頃から葉が開葉する前までの約1ヶ月の間採取することができます。

採取時期の目安としては、日最高気温が10 前後（5 ~ 15 ）で、夜間には霜が降りる程度の気候条件が良いとされています。当センターでは3月中旬から4月上旬に採取することができました。

長野県農村工業研究所が木曾郡の三岳村で最高気温が5 を越え始める3月下旬から4月下旬の1ヶ月間に採取を試みたところ、最高気温が10 を越えるような気温の高い日の方が1日の

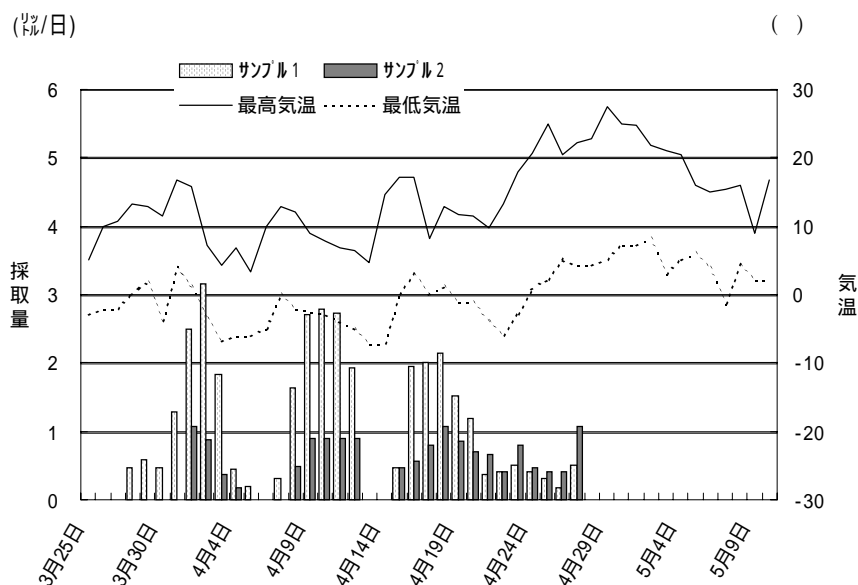


図 シラカンバ樹液の採取量と気温（長野県三岳村）
 竹内（1997）農工研通信 No.103より改変

採取量が多くなったということです。

なお、シラカンバの樹液は酸化しやすいので、日中の気温が高いと採取中に容器内で腐敗してしまうことがあります。

どうやって採るのか

シラカンバの樹液は材の木部から分泌しますので、幹の根元近くに直径1cm程度の穴を樹皮から木部に達するまで数cmほどの深さであけます。穴をあけると、じわじわと樹液がしみ出してきます。そこで、この穴に合うような管を差し込み、管をのばしてポリタンク等の容器へ導きます。

樹液の採取はできるだけ太い木で行った方が、多くの樹液がとれるので効率的です。

これまでの調査によると、胸高直径20cmのシラカンバで1シーズンに100～150%の樹液が採取できるとのことですが、先ほどの三岳村の例では根元直径60cmのシラカンバで15～35%採取できました。

シラカンバは枯れないのか

1年に直径1～2cmの穴を一つあける程度であれば、5年間樹液を採取し続けても、シラカンバの成長に影響を与えないことが確かめられています。しかし、ウルシ掻きをするように幹にV字の傷を複数付けて樹液を採取した場合には、樹液を採取したシラカンバが枯死したという事例もありますので、あまり大きな傷を付けて樹液を採るのは避けた方が賢明です。

シラカンバ以外でも

このような方法で樹液を利用できる木は、シラカンバばかりではありません。韓国ではシラカンバだけでなくオノオレカンバやダケカンバからも樹液を採取していますし、ヨーロッパではシダレカンバやヨーロッパシラカンバなどのカバノキ属の樹木から広く樹液を採取しています。

カバノキの仲間だけでなく、カエデの仲間からも樹液の採取ができます。市販されているメープルシロップは、サトウカエデ (*Acer saccharum*) の樹液から作られています。また、アイヌの人々はイタヤカエデなどから樹液を採取していたとの記録が残っています。



写真 シラカンバ樹液の採取風景

担当者 育林部 小山泰弘